

令和5年度

櫛淵小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習する力を伸ばし、共に学び高め合う児童を育てるための実践研究
- 家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
野上綾音	校長・教頭・教務主任・人権教育主事・研修主任・各学年担任・養護教諭

校長

山口 裕司

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な計算や漢字の読み書きなどに根気強く取り組み、一定の成果が見られる。 ●基本的な計算では、やや正確さに欠け、時間がかかる児童や、学年が上がると漢字の達成度が難しくなる児童も見られる。語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・複式学級の中で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・語彙数を増やし、正しく文章を読んだり、適切な言葉を使って自分の考えを文章で表現したりできる。	・朝の活動で、一人一人が自分の課題を明確にして、取り組めるようにする。タブレットを効果的に活用し、基礎・基本の定着を図れるようにする。 ・引き続き、国語辞典を教室に常備して、日常的活用を図る。 ・日記や日記指導を大切に、適切な言葉や漢字を使うようにする。 ・授業にユニバーサルデザインを取り入れ、学力向上の掲示の工夫をしていく。 ・高学年では教科担任制を取り入れることで、基礎・基本のさらなる定着を図る。		・朝の活動等を活用し、漢字テストを継続的に行い、正答率は80%と高かったが、時間が経つと正答率が下がってしまう児童が多く、まだ十分とはいえない。 ・計算については、ミスがある児童が多く、なかなか計算力を高めることができなかった。 ・日記や日常生活の中での指導を通して、適切に漢字を使おうとする意欲や漢字への関心を高めることはできた。	・学年に応じて、くり返し漢字・計算ドリルなどに取り組み、一人一人の達成状況を明確にする。 ・日記や教科学習等で既習の漢字を適切に活用する習慣を身につけられるようにする。 ・自分の思いや考えを文章に表す力がまだ十分ではないので、話す・書くことで説明力を伸ばす指導をしていく。 ・タブレットを活用した読書や動画による読み聞かせを取り入れることで、語彙数を増やせるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題や活動に落ち着いた態度で取り組み、自分なりの考えをもち、自信をもって自分の意見や感想を伝えることができる児童が増えてきている。 ●自分の思いや考えを筋道を立てて話したり、文章で表現したりすることに課題がある。	・目的に応じて、自分の考えを理由や根拠を明確にして、表現することができる。	・学習活動の中で、タブレットやホワイトボードなどを効果的に活用し、自分の考えを理由や根拠を明確にして伝えたり、発表したりする機会を意図的に設ける。振り返りの時間を確保する。 ・話し方・聞き方マニュアルを積極的に活用したり、児童同士が話し方・聞き方を考える場を設けたりすることで、一層話し合いが充実するようにする。 ・算数科においては、引き続き、教科書ノートを使うことで、自分の考えなどを説明する力をさらに伸ばす。		・自分の考えをまとめる際に大切な言葉や接続詞の使い方などを指導したことで、自信をもって発言できる児童が増えてきた。 ・ペア・グループ活動をする際には、自分の意見を発言できるようにはなってきたが、意欲的な児童に任せてしまう児童もいた。 ・算数では、教科書ノートを活用することで、自分の言葉で、学習の振り返りがきちんとできるようになった。	・意図的に児童同士が話し合いができる場を設けることで、一層話し合いが充実するようにする。 ・自分の考えを伝える場面では、一人一人が考える時間を十分に取り、分かりやすく、説得力のある話し方ができるように意識させる。聞き手としての態度も育成する。 ・教科書ノートを継続して活用し、考えを説明する力等を伸ばせるようにする。 ・タブレットを活用し、児童同士で互いの意見などの情報交換ができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に真面目に一生懸命に取り組める児童が多い。 ●進んで課題を見つけ解決しようとする力や、疑問に思ったことについて自分の力で調べようとする力をつける必要がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、初めて出合った課題に対しても自分なりに解決していくことができる。	・家庭学習の手引きやチャレンジシートを通して、家庭で主体的に学習に取り組む意欲を高める。 ・学年を超えて自主学習の様子を紹介、掲示するなど、家庭学習への意欲を高める。 ・引き続き、朝の活動の中で読書に取り組む曜日を取り入れることで、読書の習慣化を図る。 ・市立図書館の団体貸し出しを活用し、図書の実用を図ったり、図書委員会が主体となり、読書推進活動をしたりすることで、読書に対する意欲が持続するようにする。		・家庭学習では、タブレット(AIDリル)を活用し、課題を出したことで、不十分どころが少なくなりつつある。 ・自主学習に意欲的に取り組める児童が増えてきたが、まだまだ十分ではない。 ・単元構成や単元の導入において、身近な生活との結びつきや経験を生かすことにより、主体的な学習につなげることができた。	・家庭学習の習慣化は、今後も地道に児童や家庭への働きかけが必要である。 ・教科や単元によって、タブレット(AIDリル)とノートを使い分けられるようにする。 ・読書については、朝の活動だけでなく国語科や総合的な学習の時間等を活用して、時間を十分に確保していくようにし、児童同士がお互いの本について情報交換をしたりすることで、読書の習慣化を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

